

＜帯広＞「思想・信教の自由を考える」2・11集会

日の丸・君が代の強制は許せない

とちかちキリスト者平和の会主催の、2・11 集会が、日本メソヂスト帯広キリスト教会を会場に行われた。今回は、DVD「“私”を生きる」を見て、懇談会をもった。教育現場における 3 人の教師の闘いをどうして、あらためて思想・信教・表現の自由について考えさせられた。明らかな憲法違反である「日の丸・君が代」の強制が教育現場で堂々に行われ、しかもそれが職務命令として、有無を言わさず「違反者」としてレッテルをはられていっている。十勝の教育現場でも、「あの教師はどんな思想を持っているか」と、まるで密告するかのような動きが出てきていると聞く。私達自身も含めて、強制に抵抗して生きる人々とのますますの連帯と支援が必要に迫られてきていることを強く感じた。

敗戦後の日本社会の歩みは、国家の国民に対する抑圧や暴走をさせないために、憲法が機能してきたと言っていい。そして国民の重要な権利として自由が保障されてきた。しかし今、強制的に思想・信教・表現の自由が取り締まりをうけている。こんな事をゆるすわけにはいかない。